

平成26年度むつ市市民政策提案 審査結果

応募のあった市民政策提案について、審査要領に基づき審査した結果、次のとおり判定しました。

◆判定の種類

- A 新年度の予算措置を含め、速やかに実施に向けて検討を始めるべき
- B 今後、研究・検討するべき
- C 徐々に拡充するべき
- D 不採択

◆判定結果

11 提案のうち

- A 判定 0
- B 判定 1
- C 判定 0
- D 判定 9

※ 1 提案は市の取組ではないため審査していない。

1 自由提案コース

(1) 子育て支援施設の充実

◆判定

D 不採択

◆コメント

旧市役所東庁舎を改修し、屋内の遊び場を整備中であり、来年4月からオープンする予定です。未就学児童から小学3年生までを対象に、土日祝日も利用できる計画で、提案にあるようなプレイルームやおむつ交換スペースの設置、保育士を常勤させて子育ての悩みも相談でき、子育てサークルの活動の情報も発信できるように検討しています。

提案とは場所こそ違いますが、内容をほぼ網羅した施設を整備することから、市役所内に子育て施設を整備することは採択にあたらぬとの判定になりました。

(2) 雪マジ！19～SNOW MAGIC～

◆判定

D 不採択

◆コメント

「雪マジ！19～SNOW MAGIC～」の取組自体は理解できるものの、当市のスキー場は登録している他のスキー場と違い、リフト券が無料になったとしても、交通費をかけてまで19歳のスキー客が県内外から訪れることは考えにくいと思われます。また、19歳のリフト券を無料にすることで、スキー場の指定管理者に対する指定管理料の引き上げが見込まれます。現実的に、当市のスキー場を利用している方は圧倒的に市民が多いと思われることも考慮した結果、提案としては採択にあたらぬとの判定になりました。

(3) ハザードマップの映像化

◆判定

D 不採択

◆コメント

映像化して教材等で活用することにより、関心は高まるのではないかというご意見もありましたが、映像による固定観念が誤認識を生み、避難行動に影響を与える恐れがあります。また、DVD をすべての市民の皆さんが見ることができないこともあり、まずは紙のハザードマップの重要性を認識してもらうことが必要ではないかと考えます。

そして最も重要なことは、紙や映像に関わらず、普段からの防災意識を高めることであり、そのためには防災訓練のほか災害が発生した場合、実際にどのような動きをするか確認するなどの取組を、引き続き進めていくことが有効と考えることから、現段階では不採択とします。

(4) むつ市の伝統を知ってもらうプラン

◆判定

D 不採択

◆コメント

今の当市の財政状況で、新たな建物の建設することはとても困難と考えます。また、運営していく経費や体験教室で指導するスタッフの養成等も必要となります。「むつ来さまい館」や「むつ市陶芸センター（川内地区）、「むつ市木材工芸センター（大畑地区）」などのほか、民間の業者においても、「南部せんべいづくり」、「べこもちづくり」なども前日までの予約で対応できることから、観光客へのニーズにある程度対応できるのではないかと考えます。引き続き既存の施設を有効活用し、広報面等で支援していくことが市の役割と考えることから、提案としては採択にあたらぬとの判定になりました。

(5) むつ市の経済発展のために

◆判定

D 不採択

◆コメント

ショッピングモールを建設することは、あくまでも民間企業が行うもので、市が行うものではないと考えます。また、今ある商業施設をモールに移転させることは、それぞれの商店の経営方針にもより、移転した場合移転前の店周辺の住民にとって不便にもなることから、とても困難ではないかと考えます。そのことから、新たな企業を誘致することが現実的ではないかと考えます。また中央町が少しずつ発展している中で、市が克雪ドーム周辺にショッピングモールの建設に手を出すことで、これまで民間企業が努力してきたことに水を差すことにもなりかねないと考えます。そのため、提案としては採択にあたらぬとの判定になりました。

(6) 高校生のいる家庭への支援の充実

◆判定

D 不採択

◆コメント

通学費や給食費を支援している市町村もあり、市として高校就学に関して支援することは否定するものではありません。しかし、むつ市に所在する高校は全て県立高校であり、市として提案内容の実施の有無を検討することは困難です。また、仮に当市の給食センターを活用し、対象者へ給食を提供するとしても、現状の施設の規模では対応できないと考えます。市としての高校生に対する支援としては、奨学金制度を実施していますので、現状ではその制度を利用させていただきたいと考えていることから、提案としては採択にあたらぬとの判定になりました。

(7) 世代を跨いだ地域交流会

◆判定

D 不採択

◆コメント

現在当市においてはスキー教室や敬老会、学校や高齢者福祉施設等の各種団体では、年に数回交流事業を実施しています。提案内容としては良いものではあるものの、市が一元的に取り組むものではなく、各種団体単位でお互い無理のない計画により交流の機会を作り、継続していくことが望ましいと考えます。市が主導で無理強いして行っても楽しめる場となるか疑問もあり、世代間交流のニーズも多種多様である中、市としては各種団体が世代間交流を実施するにあたって支援していく立場ではないかと考えることから、提案としては採択にあたらなとの判定になりました。

(8) 陸奥号（むつごう）作戦～コンテンツツーリズムによるむつ市の活性化～

◆判定

B 今後、研究・検討すべき

◆コメント

コンテンツツーリズムという手段については、賛同する意見が多々ありましたが、提案内容にあるとおり、「艦これ」の同人誌即売会イベントは市民が主体で行ったイベントでは無く、あくまでも別団体が以前から実施してきたものに商工会議所青年部が側面から支援する形で開催されました。そのため、市が主体的に関わることは難しいと考えます。

当市としては、「艦これ」にこだわらず、コンテンツツーリズム自体を市民に周知し、考えてもらう機会を設けるために、すでに実施している民間の団体等から取組を進めてもらうことも含め、機運を醸成していくことなど、今後、研究・検討していきたいと考えます。

(9) 歩行者が安心出来る街づくり

◆判定

D 不採択

◆コメント

道路整備の必要性は認識しており、パトロールによる現状把握など、必要な箇所については計画的に実施しているものの整備計画路線が多く、整備完了までには相当の年数と経費が見込まれます。歩行者の安全を確保できるように、限られた財源の中で順次実施するとともに、県道・国道については町内会単位で要望が上がりますので、その都度県へ要望を届けています。

提案内容のうち、カーブミラーについては市で設置していますので、今後も継続して取り組むとともに、信号機は公安委員会（警察）が設置することから、市に設置要望が寄せられた場合は、調査の上、警察署に要望します。

なお、その他の安全対策としては、市政だより等で自動車の運転者に対して運転マナー向上の呼びかけや、学校・交通安全関係団体と協力して啓発活動に努めるなど、可能な限り歩行者が安心できるまちづくりに取り組んでいることから、提案としては採択にあたらぬとの判定になりました。

(10) むつ市のうまいをもっと広めるために

◆判定

D 不採択

◆コメント

当市のふるさと納税をPRする方法として、リーフレットを市内の宿泊施設や物産館へ設置するほか、市ホームページでの周知や、首都圏で開催するイベント等で配布するなど、提案された内容については現在実施し、平成25年度の実績でふるさと納税は1,000件を超えています。ただし、ふるさと納税は生まれ育った自治体やゆかりのある自治体へ納税できるようにと考えられた制度であり、市政だよりによる広報については、市民の方々に寄附していただくように広報するのではなく、市外在住の友人や知人へ当市のふるさと納税のPRしてもらえるように広報するほうが好ましいと考えます。

うまいものツアーに関しては、当市の特徴的な産品は旬の時期が異なるため、一度に多くのうまいものを巡るツアーは難しく、季節毎に継続的に取り組まなければ効果は表れにくいと考えます。しかしながら、全国的には、地域の「食」を巡るバスツアーなどが人気商品となっている所もあるので、民間の観光会社、バス会社等による食と観光に力を入れたツアーの実施を期待するとともに、市としてはむつ市の食と観光の更なるPR、売り込みに努めたいと考えていることから、提案としては採択にあたらぬとの判定になりました。

2 親子で提案コース

(1) ランドセルカバー図案の変更

◆判定

なし

◆コメント

ご提案いただいたランドセルカバーの配布は、市が実施しているものではなく、むつ市連合PTAが新一年生の登下校時における交通安全確保のために実施しているものでありますので、審査の対象外となりました。

しかしながら、この市民政策提案制度の担当として、ご提案いただいた内容は子どもたちの笑顔がはじける様子を誰もが容易に想像できるものであり、単に対象外として扱うべきものではないと判断し、実施主体であるむつ市連合PTAへ可能であればこの提案を実施していただけないかと打診しました。

むつ市連合PTAからは是非実施したいとの回答を得ておりますが、来年度に配布するランドセルカバーについては、今年度予算で発注するため、新たにデザインを変更するための予算が無いことや、また海外での製造となるため、デザインの決定や印刷のための原版作成に時間を要し日程的に間に合わないということから、ムチュランファミリーのランドセルカバーについては平成28年度の新一年生への配布を目指して取り組みたいとのことでした。